



## 2期生 (経済学部/経済学科)

# 島田 大

# 決めたらやり尽くす



## 01

### 生まれと育ち

#### 周りに支えられて

兵庫県尼崎市生まれ尼崎市を「危険」「怖い」などの印象を持っている方が多くいますが、住めば都です。父が転勤族ということもあり、大学入学までに兵庫県→愛媛県→神奈川県→奈良県→兵庫県と4回転校しましたが、持ち前の人当たりの良さで転校した次の日には、すでに4〜5人の友達ができていました。

2002年の日韓ワールドカップの時からサッカーを始め、現在まで14年間サッカーに打ち込んでいます。大学受験期に入るまでは学校以外の時間、ほぼサッカーに時間を費やしており、「サッカーすること」しか脳がないスポーツ人間でした。学業では、高校の修学旅行でグアムに行ってから「海外の人と会話すること」に興味を持ちました。そして大学受験期の塾で恩師と出会ってから英語の面白さに気づき、「大学生になったら英語をマスターして、海外の人と交流できるようなりたい」という想いを抱いて現在所属している京都産業大学に入学しました。



## 02

### 大学生になってからのこと

#### 新しいことへの挑戦

高校時代はサッカーで全国大会出場という目標に向かって日々を過ごしていましたが、大学では「何か新しいことをしたい」と思い、ボランティアの部活動に所属しました。また、高校の修学旅行で海外の人と交流してから、英語に興味を持ち、大学の授業や英会話スクールへの通学、趣味の海外旅行等で英語に日々触れてきました。そしてこのむすびわざプログラムでは、社会人基礎力を身に付けるため、日々の学習に動んでいます。



## 03

### 長期有給インターンシップ

#### 行動することが何より大切

長期有給インターンシップでは、マレーシアの大学である、国立ウタラマレーシア大学で勤務しました。そこでは大学の職員として働かせていただきました。4か月の長期有給インターンシップで感じたことは、

## 04

### 大事にしたいこと

#### 仕事ができる人



仕事ができる人はマルチタスクをしていますが、ひとつひとつの仕事を実践にしないことをインターンシップで気付きました。

色々な方向にアンテナを張り、行動すること、全ての仕事に熱量(時間と努力)を持って取り組むことをインターンシップ先の仕事ができる人は実践していました。仕事ができる人に近づくためにまずは、何事も行動することを意識していきたいです。そして、仕事に熱量をかけられるように、自分の行動に責任を持つようになりたいと思います。

## 05

### これからのこと

#### やり尽くした大学時代に

私は、仕事仲間から「尊敬され慕われたい」と思っています。そのためにも、仕事ができる人にならなければならぬと思います。現在所属しているむすびわざプログラムでは、授業を学生が企画・運営を行っています。まずは自分が運営の責任者(委員長)に自ら進んで立候補し、周りの学生を引っ張っていきます。そして、大事にしたいことで挙げた「いろいろな方向にアンテナを張り、行動に移すこと」「すべての仕事に熱量(時間と努力)をかけて取り組むこと」を常日頃意識し、行動します。そして私が社会人になって、大学生活を思い返したときに「あの大学生活があったから今の自分がある」と思えるような学生生活を送ります。



### 海外長期有給インターンシップ

言語の壁の大きさを痛感しながら、国立ウタラマレーシア大学で教職員として勤務。「行動しないことには何も生まれにくいこと」を学ぶ。

### 20歳

### プロフィール

1996年2月6日生まれ。趣味はサッカーとカフェで読書すること。6歳からサッカーを始め、高校時代までサッカーに時間を捧げる。大学に入り「新しいことをしたい」という想いからむすびわざプログラムに所属する。大学3年次の春学期に行った長期有給インターンシップでは、国立ウタラマレーシア大学に大学職員として勤務し、「行動しないことには何も生まれにくい」ということを学ぶ。現在その学びを行動に移している最中。

### 修学旅行でグアムに行く

初めて海外の人と関わる。他国の言語を話せないやせなさ・挫折感を味わう。

### 18歳

### 花田耀己(3期生)

良い意味で先輩と後輩の壁がない寛大な心を持っていると思います。後輩に対して丁寧な指導をしてくれ、気さくな性格でノリが良いところも島田さんの長所だと思います。

### サッカーを始める

2002年日韓ワールドカップのフームに乗っかり、サッカーを始める。その後、現在に至るまでサッカーを続けている。

### 6歳

### 先輩・後輩からのメッセージ

### 藤島和樹(1期生)

2期生のSPIを引っ張るのは島田だよ。と言ったことがあります。実際に島田が他の2期生にアドバイスをしていました。自分以外の誰かのためにも行動することが出来る人間だと思います。

「働く上で主体的に行動することが何よりも大事」ということです。インターンシップでより多くのことを学べるよう、マレーシアに行く事前にインターンシップの計画書を作成し、目的を達成した姿である目標を達成するための行動を明確にしています。それに加え、毎日最低2時間以上は英語の学習に励んでいます。



「自分から企画を提案する」「スタッフの指示を待つのではなく、自ら頭を使って行動する」ことが後半ではできるようになり、充実したインターンシップにすることができました。